

安芸市畑山地区

地域農業の未来を考える集落座談会（1回目まとめ）

1. 実施日時：令和6年9月2日（月）14:00～16:00

2. 実施場所：安芸市立栃ノ木公民館（安芸市栃ノ木54-2）

3. 参加者：地域の担い手等（11名）
JA高知県安芸営農経済センター（1名）
高知県安芸農業振興センター（2名）
安芸市農業委員会（1名）
安芸市農林課（1名）

計16名

4. テーマ：「畑山地区が目指す農業の将来像」

5. 会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

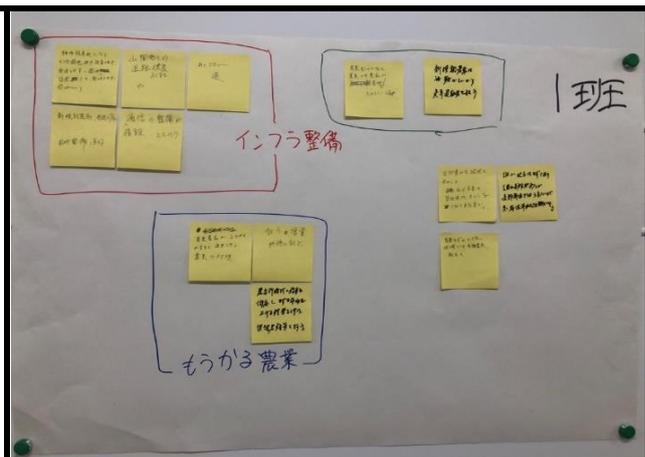
- ・畑山地域や尾川地域の園地の多くは地域外に住む通い農家で維持されており、移動にかかる時間的ロスや移動費などの負担が大きい。
- ・特に尾川地域の園地は日照時間が短く、青果にしても酢玉にしても生育が遅れ一番単価の良い時期に出荷できず、農家所得が上がらない。
- ・飛び地ので狭い園地を抱える人が多く、作業効率が悪い。
- ・高齢化で後継者がいない農家も多く、新たな担い手確保が急務。
- ・園地までの動線や基盤整備が不十分で、生産性の低い農地が多い。
- ・園地の生産性が向上しないと、後継者に引き継ぐことができない。
- ・有害鳥獣による作物被害が深刻化し、農家の営農意欲が高まらない。
- ・ゆずの販売単価や収量増など、農家所得を向上させる取組が必要。

②課題解決に向けた取組

- ・耕作放棄地やその恐れのある農地の基盤整備に取り組み、生産性を高めることで担い手の地理的、地形的な負担を軽減する。
- ・新規就農者の確保に向け、中山間地域への道路整備や情報通信環境を整える。
- ・専業農家のみならず、兼業や定年退職後の就農者を育成する。
- ・鳥獣被害を減少させるため、緩衝地帯となる里山保全に取り組むとともに、防除ネットで集落全体を囲い込む。
- ・ゆず取引企業による管理園地を設け、持続可能な農地維持を図る。
- ・行政と連携し、園地の情報共有や所得向上に向けた地域ブランド化を目指す。
- ・新たに集落営農組織を立ち上げ、地域全体で農地を守っていく。
- ・スマート農業を積極的に推進し、農作業の省力化を進める。

【座談会の様子】

《第1班》



テーマ	
火田山地区が目指す農業の将来像	
第1班	
No.	こんな地域農業を実現したい！
1	「儲かる農業」を実現する
2	生産性の向上
3	後継者 育成 のための農業
実現するための方法	
	<ul style="list-style-type: none"> 農業所得の向上 生産の拡大
	<ul style="list-style-type: none"> 農道の整備 農地の集約・基盤整備 運送の整備
	<ul style="list-style-type: none"> 意欲ある兼業農家に後継者候補 企業と連携した農地集約



■班内で出された意見■

- ・遊休農地や耕作放棄地になりそうな園地を造成し直し、栽培しやすく生産性の高い農地を増やすことが重要。
- ・中山間地への道路改良や情報通信の設備を整えてほしい。
- ・ゆずの単価や反収増など、農家所得を向上させる対策が必要。儲かる農業でないと後継者は育たない。
- ・ゆず専業農家が子どもを大学まで行かせられる収入を確保したい。
- ・ゆずの新規就農はハードルが高いことから、定年退職後の就農者を育てる。
- ・専業だけでなく、意欲ある兼業農家を支援する取組が必要。
- ・自然豊かな環境を生かして取引企業による管理園地をつくり、農地の維持を図る。
- ・畑山支部での取組には限界があるので、集荷場単位で新たな組織を立ち上げる。
- ・青果ゆずが栽培できない地域で有機農業を展開して輸出を検討する。

《第2班》



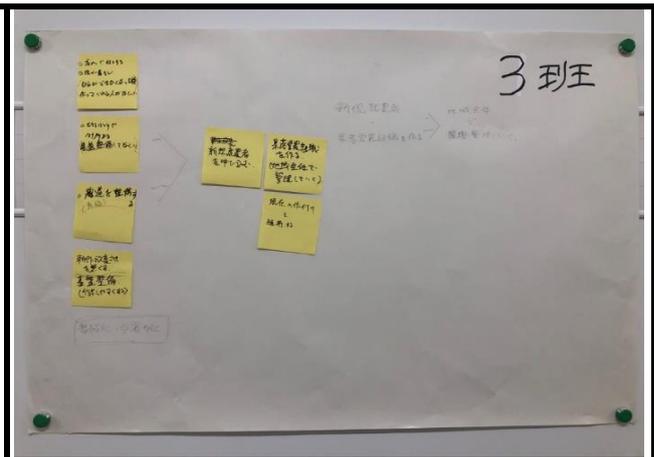
テーマ ^{地区} 畑山 兼営 目指す 農業の将来像		
第2班		
No.	こんな地域農業を実現したい！	実現するための方法
1	<u>耕作放棄地ゼロ！！</u>	<ul style="list-style-type: none"> 本来 敷居式で場所の管理・園地集約化 スマート農業の活用 (早刈り、GPS) 農道・園地周端整備
2	獣害減少	<ul style="list-style-type: none"> 里山保全 身振での園地への対策
3	30代 ~ 40代の就農	<ul style="list-style-type: none"> 行政との連携 集まるプラットフォーム(身振up) 園地の情報共有



■班内で出された意見■

- ・緩衝地帯となる里山保全に取り組み、有害鳥獣による作物被害を減少させたい。
- ・集落全体を防除ネットで囲い込む。
- ・耕作放棄地の拡大を防ぐには、道路整備が欠かせない。
- ・農道や基盤整備により園地を集約化する。
- ・自走草刈機やドローンなどスマート農業の活用を推進する。
- ・令和10年度までに30～40代の農業従事者を10%程度まで引き上げる。
- ・地域の空き家を活用して園地周辺への移住を進める。
- ・地域をよく知ってもらうための体験プログラムを造成する。
- ・尾川地区の高齢化率は90%超で農地の維持は困難。効果的な対策はない。
- ・日照時間が短く、青果にしても酢玉にしても実が熟するのが遅れ、一番単価の良い時期に出荷することができない。地形的な条件が悪すぎて農家所得の向上を阻害している。
- ・畑山地区の園地の多くは地区外に住む通い農家で維持されているが、移動にかかる時間的なロスや燃料費などの負担もあり、子どもに引き継ぐことができない。
- ・行政と連携し、園地の情報共有や所得向上に向けたブランド化に取り組む。

《第3班》



テーマ 畑山地区が目指す農業の将来像	
第3班	
No.	こんな地域農業を実現したい！
1	活力ある地域農業の実現
2	耕作放棄地をなくす
3	楽しんでできる農業

実現するための方法	
新規就農者を呼び込む 集落営農組織を作る (地域全体で農地を守る)	
農道(動線)を整備 基盤整備	
機械化(省力化)	



■班内で出された意見■

- ・当地区が抱える課題の解消は、全て基盤整備に集約される。
- ・自身の園地は狭地ばかりで10箇所を超える。農地の集約化をしてほしい。
- ・高齢で後継者もいないため、離農後の担い手を求めている。
- ・耕作放棄地をなくすためには、園地までの道路(動線)と基盤整備が必要。
- ・現在の作付面積を維持するためには、機械化による省力化を推進することが重要。
- ・高齢者でも楽しんで農業ができる環境が必要。
- ・新規就農者を呼び込んで活力ある地域農業を実現する。
- ・新たに集落営農組織を作って、地域全体で農地を守っていく。